

めおとになっていく

I.
〈建築〉、或いは〈家〉は夫婦になれないのだろうか。
私たちに家系図があるように、血族としての繋がりを求めながらも、建築として代謝が生まれる時、それは適用されない。

「なる」ものとして家が存在できないように、「なっていく」ものが家であり、成人になる道程で家の輪郭を理想化していく。

その約 20 年の間に夢散した家の輪郭たちは、それぞれの家を臍げに定義づけながら部分化している。一致するはずのない互いの定義は、願望を誘発し、「なる」ことを目指そうとする。

ここでは家が宇宙船のようになってしまう。

互いの定義を掘い上げ、並べてみる。順番に或いは横並びに。正しい順番ではないかもしれないけれど。並んだ輪郭たちは次第に「なっていく」。夫婦になっていく。



II.
「家」は繋がる。家系図のように。
1 世紀前の私たちの輪郭は、大小変化し続けながら「なっている」。

20 年という「定義の醸成期間」が幾世代も重なり、顔の見えることのできない子孫が、この建築を通して「私」の一端に触れることができた時、今ここにある「私」と接続される。

〈家としての輪郭 - 2024〉

1. 母の背を通して見る台所の
橙色タイル [A 氏]
2. 肌が擦れると痛かった漆喰壁
[B 氏]
3. 人がいそうで怖かった天井の
隙間 [A 氏]
4. 観葉植物のせいであまく着地
できないブラインド [AB 氏]
5. 洗濯を掛けるとすぐ取れる鴨
居 [AB 氏]
6. 狭小一人部屋の階段兼収納棚
[A 氏]
7. DIY で被覆させた壁 [AB 氏]

〈家としての輪郭 - 2124〉

- [1] 橙色タイルのコーナーキッチン
- [2] ぶつかったら痛そうな△形押縁
- [3] 目の形にくり抜かれた天井
- [4] 上手く平行の取れない窓
- [5] 溢れ落ちそうな形の姿見
- [6] 姿見のための台兼収納
- [7] 大きな緑色の有孔ボードの壁

'24 9 28

Info

Year: 2124

Location: Suburbs of Belgium

Residents: Descendants and their partners

年: 2124 年

場所: ベルギー郊外

住人: 子孫とそのパートナー